

富士宮市自転車活用推進計画 -概要版-

5 基本方針・施策と具体的な取組・評価指標 第4-5章

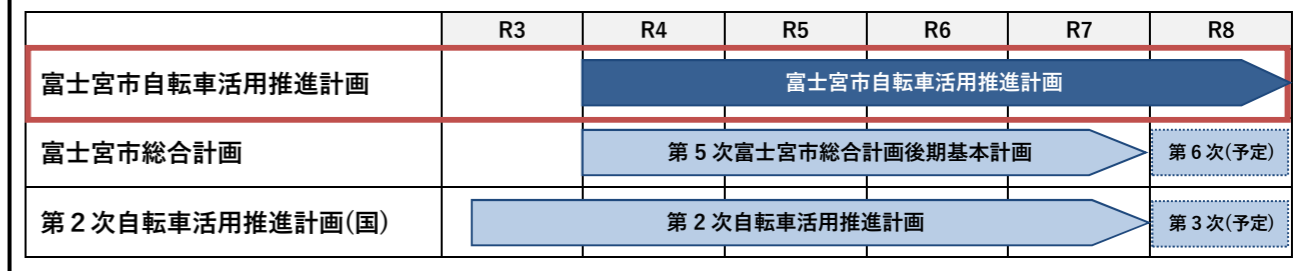
計画の柱 評価指標	基本方針 (令和4~8年)	本計画の施策	取組内容	
柱Ⅰ 健康づくりの推進 主な対象者: 市民 評価指標 1 自転車を週に3回以上利用している人の割合 10(%) → 15(%) 評価指標 2 自転車と健康に関するイベントの延べ開催数 0(回) → 10(回)	方針1 自転車に乗るきっかけづくりの推進	1 日常的な自転車利用の推進	対象者に応じた自転車の楽しみ方・乗り方を知るきっかけづくりの推進 近距離移動における自転車利用の推進	
		2 自転車の魅力や健康効果に関する啓発・情報発信の推進	自転車の活用による健康づくりの効果や自転車の魅力を伝える情報発信 自転車通勤の効果等に関する情報発信 富士山麓の自然を活用した既存サイクリングルートに関する情報発信	
	方針2 健康づくりに繋がる自転車利用環境の形成の推進	3 健康づくりに繋がるイベントの促進	健康づくりのためのサイクリング講座やライドイベントの促進 モバイルアプリケーションと自転車を活用した健康管理やイベントの検討	
		4 健康づくりに繋がるサイクリングルート形成の推進	年齢や体力などに合わせた、気軽に楽しく回遊できるサイクリングルートの設定	
柱Ⅱ サイクルツーリズムの推進 主な対象者: サイクリスト、観光客 評価指標 3 サイクリングルートの設置数 3(ルート) → 8(ルート) 評価指標 4 バイシクルピットの設置数 3(箇所) → 18(箇所) 評価指標 5 E-BIKEの年間貸出数 523(台) → 2,000(台)	方針3 地域の魅力を活かしたサイクリング環境創出の推進	5 富士山一周サイクリングルートと連携したサイクリングルート形成の推進	富士山一周サイクリングルートと連携したサイクリングルートの設定と整備	
		6 市内の地域資源や近隣市町と連携したサイクリングルート形成の推進	地域資源を活用したサイクリングルートの形成 近隣市町と連携したサイクリングルートの形成	
	方針4 サイクリストの受入環境を充実させる取組の推進	7 サイクリングを支える施設整備やサービスの推進	官民連携によるサイクリストの受入態勢の推進	
		8 サイクリスト向けのライドイベントやガイドツアーの促進	プロサイクリングチーム等と連携したライドイベントの促進 近隣市町と連携した富士山麓における自転車レースやイベントの推進	
	方針5 E-BIKEの活用や自転車の観光利用の推進	9 サイクリストへの情報発信の推進	受入環境やサイクリングルートに関する情報発信 富士宮市を起点としたサイクリングプランの情報発信	
		10 E-BIKEや自転車の観光利用の推進	市内におけるE-BIKEレンタルサービスの拡大 E-BIKEのレンタル事業者によるE-BIKEの活用促進 E-BIKEレンタル事業を実施していない事業者のE-BIKEの活用促進	
	方針6 安全安心な自転車利用の推進	11 E-BIKEの魅力やサイクリングに関する情報発信の推進	富士山麓でのE-BIKEの楽しみ方やサイクリングに関する情報発信	
		12 回遊環境の向上に向けた自転車の活用検討	自転車利用の利便性向上に向けた取組の検討・整備	
		13 自転車に関するルール・マナーの周知や啓発活動の推進	自転車に関するルール・マナーの周知や啓発活動の実施 対象者に応じた自転車安全教室の実施 自転車の安全利用に関する制度の周知・啓発	
	柱Ⅲ 安全安心な環境づくり 主な対象者: 市民、サイクリスト、観光客 評価指標 6 自転車安全利用五則の内容を全て知っている人の割合 48(%) → 70(%) 評価指標 7 市内の自転車事故の発生件数 83(件) → 75(件) 評価指標の数値 現状の値 → 令和8年度の値	方針7 安全安心で快適な自転車利用環境の形成の推進	14 安全安心な自転車の維持管理の促進	日常利用の自転車の安全な維持管理の促進 観光利用を目的とした自転車の安全な維持管理の促進
			15 災害時における自転車の活用検討	災害時における自転車の活用方法の検討
		方針8 安全安心で快適な駐輪環境整備の推進	16 まちづくりと連携した自転車走行空間整備の推進	既存の自転車走行空間を活用した自転車走行空間の整備検討
17 快適な自転車走行環境を確保する取組の推進			自転車の利用ニーズを踏まえた道路の維持管理に関する取組の推進	
18 安全安心で快適な駐輪環境整備の推進			既存駐輪場の駐輪環境の維持や利便性向上のための整備 駐輪場内の防犯や放置自転車の対策の推進 駐輪需要に応じた新規駐輪場の検討・整備	
方針9 快適に移動できる環境整備の検討		19 快適に移動できる環境整備の検討	自転車と公共交通機関の連携検討	

1 計画策定の背景と目的 第1章

- 自転車は、健康増進に効果的で環境にも優しい乗り物として、幅広い世代に通勤・通学などの日常生活や、観光・スポーツの道具として利用されています。また、脱炭素社会の実現やSDGs(持続可能な開発目標)の目標達成が求められる今後のまちづくりにおいても、注目されている乗り物です。
- 国では、令和3年5月に「第2次自転車活用推進計画」を策定、静岡県においても、「静岡県自転車活用推進計画」を平成31年3月に策定し、サイクルスポーツの聖地創造に向けた多様な施策を推進しています。
- ナショナルサイクルルートとして指定された「太平洋岸自転車道」や、今後の指定を目指す「富士山一周サイクリングルート」の設定、E-BIKEや電動アシスト付自転車の普及など、自転車を取り巻く環境が変化中、富士宮市においても、市民や観光客、サイクリストが自転車を活用する機会の増加が想定されます。
- このような状況を踏まえ、富士宮市では、自転車の活用を推進することで「都市の活力向上」と「市民生活の質の向上」を図ることを目的に、「富士宮市自転車活用推進計画」を策定しました。
- 計画を推進することで、「富士山SDGs」の理念である「富士山の特性を生かした持続可能なまちづくり」にも繋げていきます。

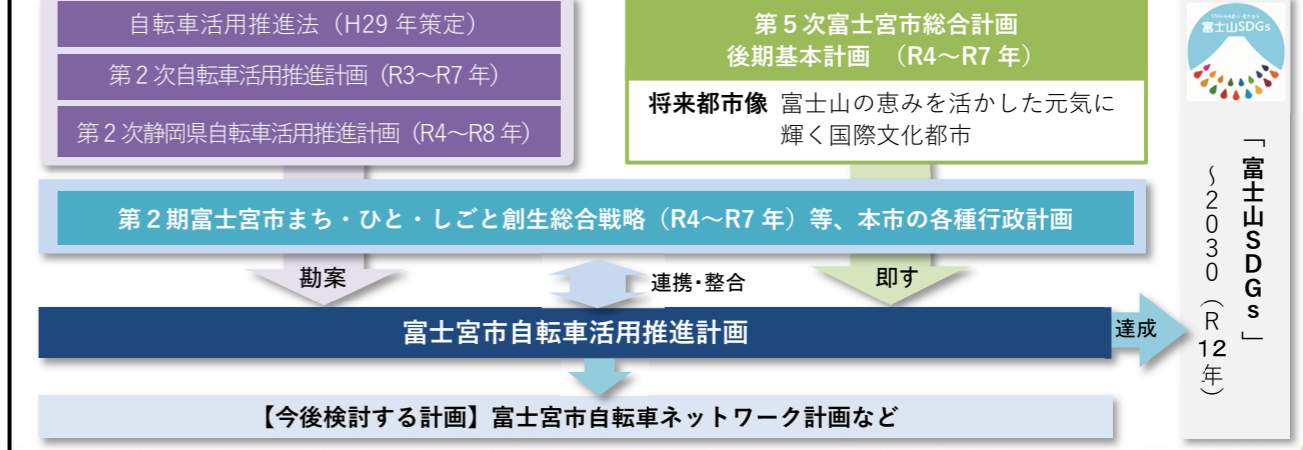
2 計画の期間と区域 第1章

- 計画期間は、令和4年度(2022年4月)から令和8年度(2027年3月)までの5年間とします。
- 本計画の対象区域は、富士宮市全域とします。また、自転車の活用は周辺市町村にわたることから、周辺市町村との連携を含むものとします。



3 計画の位置付け 第1章

- 国及び県の「自転車活用推進計画」を勘案し、本市の「富士宮市総合計画」をはじめとする行政計画との整合・連携を図り、本市の自転車活用に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本となる計画として位置付けます。



本市の自転車を取り巻く課題を踏まえ、本計画の目標像を「富士宮の新しい！楽しい！暮らしを、自転車から」とし、それを支える3つの柱「Ⅰ.健康づくりの推進」「Ⅱ.サイクルツーリズムの推進」「Ⅲ.安全安心な環境づくり」と各柱の目指す姿を設けます。本計画は、2030年の目標像に向け、5年後（2027年3月）の目指す姿を示しています。また、自転車に関する取組を継続的に実施していくことで「富士山SDGs」の達成にも寄与していきます。

自転車を取り巻く課題	計画の目標像 【2030年のあるべき姿】	計画の柱と目指す姿	5年後(2027年3月)の目指す姿 (自転車を活用する基盤づくり)	2030年に目指す姿 (自転車を活用した新たなコミュニティ)
<p>課題1 富士山麓の特性を活かした健康増進の環境づくり</p>	<p>富士宮の新しい！楽しい！暮らしを、自転車から</p> <p>本市は、「健康づくり」や「サイクルツーリズム」を通し自転車の活用を推進するとともに、安全安心な環境づくりを進めることで、市民生活の質の向上や都市の活力向上を目指します。また、自転車に関する多様な取組が継続されることで、「富士山SDGs」の達成にも寄与します。</p> <p>自転車の利用拡大を図るため、まずは身近な利用者向け、自転車を安全安心に利用できる環境を整え、市民の健康増進や観光客が市内に滞在してもらう自転車の活用基盤を構築し、自転車に触れる機会を拡大します。</p> <p>また、計画の目標像を実現させるため、自転車の活用基盤を活かし、市民やサイクリスト、観光客をはじめとした新たな地域コミュニティづくりや地域を大回遊する環境を整備することで交流人口や関係人口を拡大し、市民生活の質の向上や都市の活用向上を図ります。</p> <p>自転車に関する取組が継続されることで、自転車による富士宮の新しい、楽しい暮らしの実現を目指します。</p>	<p>柱Ⅰ. 健康づくりの推進</p> <p>本市の健康増進に適した環境と自転車を活用した「富士宮市＝健康のまち」を定着させ、まちの発展を目指します。</p> <p>本市が「健康のまち」であることが定着することで、市民が通勤・通学や買い物等、日常的に自転車を利用し、休日は自分に合ったサイクリングルートで運動など、本市の生活の中に自転車を活用した健康づくりが広がることで、市民生活の質の向上を図ります。</p>	<p>健康づくりを醸成させる基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市と健康に関する情報が市内外に発信され、日常的に運動やスポーツを行うなど、健康づくりの機運が高まる 健康づくりのために、通勤や近所へのお買い物などの身近な日常生活で、自転車が活用される  <p>日常な自転車利用のイメージ</p>  <p>健康づくりのイメージ</p>	<p>市民が楽しく健康になるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療や福祉が充実した地域の新たな医療拠点に、テレワーカーや二地域居住者等が滞在し、サイクルスポーツなど富士山麓の特性を活かした健康づくりができる 健康増進に適した豊かな自然環境のなか、E-BIKEを活用して地域を大回遊するなど、市民のライフスタイルに合わせた生活圏で暮らす  <p>健康づくりのイメージ</p>  <p>市民が楽しく健康になるまちのイメージ</p>
<p>課題2 市内に滞在してもらう環境づくり</p>	<p>また、計画の目標像を実現させるため、自転車の活用基盤を活かし、市民やサイクリスト、観光客をはじめとした新たな地域コミュニティづくりや地域を大回遊する環境を整備することで交流人口や関係人口を拡大し、市民生活の質の向上や都市の活用向上を図ります。</p>	<p>柱Ⅱ. サイクルツーリズムの推進</p> <p>本市の地域資源を活用した「富士宮市＝サイクリングの起点となるまち」を定着させ、まちの発展を目指します。</p> <p>本市が「サイクリングの起点」であることが定着することで、サイクリストが本市からサイクリングに出発、観光客がE-BIKEで富士山麓の自然環境を楽しむなど、本市を訪れた人が市内を回遊し、滞在することで、都市の活力向上を図ります。</p>	<p>サイクルツーリズムを醸成させる基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 富士宮に滞在してサイクリングを楽しむ魅力が首都圏をはじめ、市内外に周知される ガイド付きツアーに参加し、スポーツタイプの自転車やE-BIKEで、田貫湖や富士山世界遺産、富士山麓でしか楽しめない場所を巡るなど、自転車で使った富士宮市を満喫することができる  <p>サイクルツーリズムのイメージ</p>  <p>富士宮市の滞在で自転車を活用するイメージ</p>	<p>サイクリストや観光客で賑わうまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日に首都圏を離れ、医療や福祉のサポート環境がある朝霧高原を拠点に富士山の大回遊を楽しむため、仲間のサイクリストと繰り返し訪れる ヘルスツーリズムを取り入れたツアーで地域を巡り、農業や林業体験を行い、空き家を改修した古民家を拠点に長期滞在する  <p>サイクリストや観光客で賑わうまちのイメージ</p>  <p>ヘルスツーリズムのイメージ</p>
<p>課題3 自転車を安全安心に活用していく環境づくり</p>	<p>本計画と関係するSDGs（持続可能な開発目標）</p>  <p>3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>柱Ⅲ. 安全安心な環境づくり</p> <p>柱Ⅰ・Ⅱの基盤として、自転車走行空間の整備やルール・マナーの周知により、誰もが安全安心に自転車を利用できる環境を整えます。</p> <p>市民・企業・行政が連携して取組を展開することで「健康のまち」、「サイクリングの起点のまち」による市民生活の質の向上と都市の活力向上を盤石なものにしていきます。</p>	<p>自転車を安全安心に利用する基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ナショナルサイクルルートを始めとする自転車走行空間を通して、迷わず楽しむことができる 自転車通勤や通学など、日常生活で安全安心に走れる環境整備に関する取組が進められている 子供からお年寄りまで、市民や企業がルール・マナーに加え、自転車の楽しさを学んでいる  <p>安全安心に自転車を利用できるイメージ</p>  <p>自転車が地域を結びイメージ</p>	<p>地域内や地域同士がつながるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全安心に地域内やまちなかと市内の地域間を大回遊できる自転車専用の通行空間が、まち全体を繋ぐ バスやタクシーなどの公共交通機関と自転車がシームレスに繋がり、どこで暮らしていても快適に移動できる  <p>地域内や地域同士がつながるまちのイメージ</p>  <p>バスやタクシーと自転車のイメージ</p>

本計画では、5年後の目指す姿に向けて、様々な取組を進めていきます。（次ページを参照）

